

ケモノキャラクターの 〈名付け〉論

～言語学から考える～

キプラ / KiPra

Twitter: @M_KPra

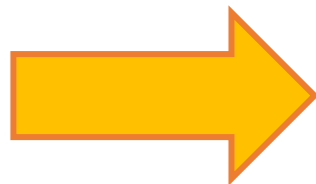
はじめに

どっちがクークー？

どっちがガーガーゴン？



進化



多くの方は.....

こう考えたのではないのでしょうか？



クークー



ガーガーゴン

クークー

ガーガーゴン

小さそう

弱そう

無垢・幼そう

大きそう

強そう

邪悪そう

音はイメージを持っている

この「音のイメージ」について、より深く考えてみよう

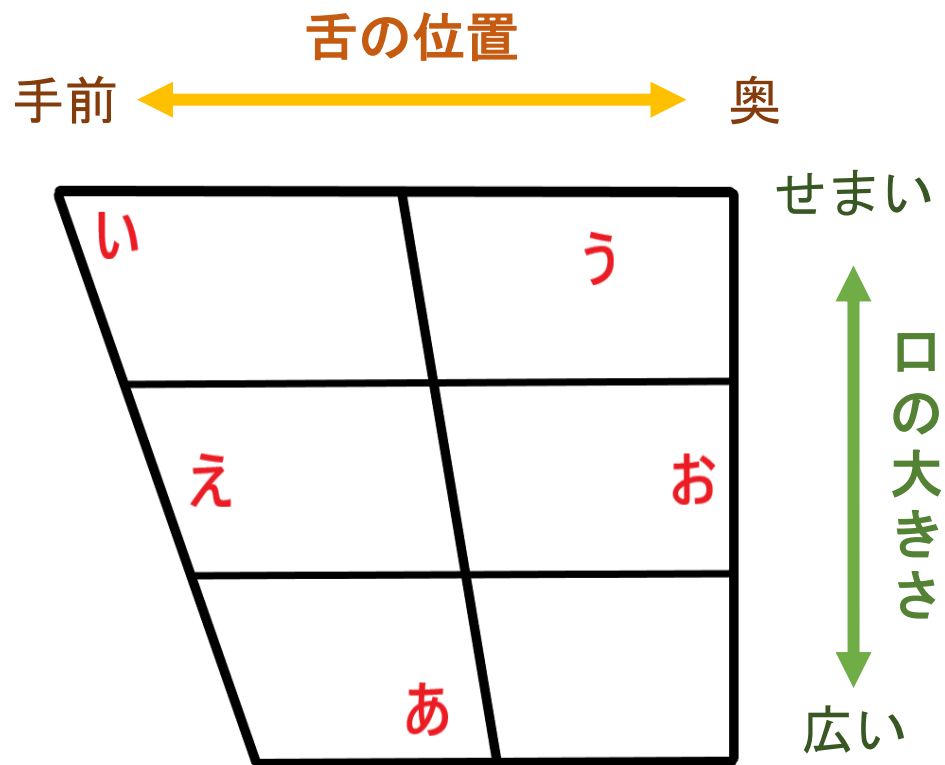
音のイメージ その1: 母音

母音とは？

簡単に言えば、キーボードで日本語を入力するときの「a, i, u, e, o」のこと。

「か」という音の母音は「あ」
「き」という音の母音は「い」

母音は主に、発音するときの口の大きさと舌の位置で区別される。



母音が持つイメージ

基本的には、「**口が広くて舌が奥にある母音**」ほど「**大きい**」と感じる傾向がある。

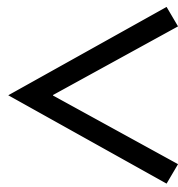
日本語の場合

あ ≒ お > え > う > い

という順で、大きい印象の音になる。



グーグ



ガーガ

音のイメージ その2: 子音

子音とは？

キーボードで日本語を入力するときの「a, i, u, e, o以外」を想像してもらえればよい。

か行（かきくけこ）の子音はk

ら行（らりるれろ）の子音はr

となる。

子音が持つイメージ

日本語の場合、「濁点（`）をつけれる子音」は「重い」「強い」「角ばった」印象になる。

重い・四角

か(k), さ(s), た(t), ば(b)



軽い・まるい

ま(m), な(n), ら(r), や(y)

子音のイメージを利用した例

「軽い」「丸い」「やわらかい」イメージのキャラクターの音には「濁点（゛）をつけられない音」を使い、反対に「重い」「四角い」「かたい」イメージのキャラには「濁点（゛）をつけれる子音」を使う。



ミュルミュル



ガトガト

応用例

小説のキャラ名

「僕は、仰向けに寝ている **ラモー (ramoo)** のおなかに飛び込んだ。
大きくて、柔らかくて、ふかふかな白い毛に包まれて、思わずうとう
としてしまう。」

→ 「大きい」母音と「やわらかい」子音を多用し、絵を使わずにキャラクターのイメージを作る

名前（特に最初の文字）は、キャラクターの印象
を大きく左右する！？

まとめ

日本語の子音や母音には、それぞれがイメージを持っている。

そのイメージを知ってうまく使ってあげることで、絵や小説において、よりよいケモキャラ（ケモキャラ以外も？）の名前作りに活用できる！

今回紹介したのは、「音象徴」と呼ばれる研究のごく一部です。ご興味のある方はぜひ調べてみてください！

参考文献など

モンスターの絵

七三ゆきのアトリエ 様 (<https://nanamiyuki.com/>)

絵がなくて困っていた私を救ってくれた神サイト様。

言語学関連

川原繁人(2017). 『「あ」は「い」より大きい!? —音象徴で学ぶ音声学入門』 . ひつじ書房

今回の内容はほぼこの書籍に網羅されている。

PHOIBLE 2.0 (<https://phoible.org/>)

主に日本語の音韻の確認に利用。

ご清聴ありがとうございました